



発行者 岐阜県立中津高等学校 同窓会
題字は山本完六校長
タイトルバックは石田 昇氏 (28回)

新体育館完成

思い出多き「旭ヶ丘会館」の姿消す

平成十三(二〇〇一)年 二月二〇日、旭ヶ丘の地に二階建ての真新しい体育館が完成した。新体育館は、鉄筋コンクリートの総二階



多目的スペース(ピロティ)、男女の更衣室に、全定の体育教官室などが設置され、二階は、バスケットやバレーボールのコートが二面とれるスペースの体育館に、奥行き5mのステイジと器具庫、放送照明室が設置されている。第一棟の二階図書館横から、渡り廊下で体育館に通じている。総工費約六億千六百余万円、その他に体育館備品整備のために、同窓会が五百万円、PTAが一千百万円援助することになった。

これまでの第一体育館は、総工費三千三百万円(うちPTA負担分六百余万円)、床面積九九三、一㎡、鉄骨スレート葺平屋建てで、昭和二九(一九五四)年二月に完成したかつての第一体育館(当時は「旭ヶ丘会館」と呼んだ)は、幾多の卒業生達の思い出多き「旭ヶ丘会館」であったが、はるかに耐用年数を過ぎた危険建物として、平成十一年十月、十二月に解体された。思えば四六年前、五月十七日の「旭ヶ丘会館」の落成式には、当時の岐阜県知事武藤嘉門氏が出席し祝辞を述べられ、落成記念講演会には亀井勝一郎氏や前田青郎氏が来校されて講演され、ステージに置かれた新しいグラウンドピアノの初披露には、東京芸大教授の梶原完氏のピアノ演奏が行われた。ステイジや照明のある建物で、中津川市になかった当時、この「旭ヶ丘会館」は市民の文化娯楽施設としても大いに利用され、美空ひばりをはじめ有名歌手の歌謡ショーや、新制作座などの演劇公演がたびたび行われた。昭和五九(一九八四)年に大改修工事を行って補強され、柔道・剣道・卓球・演劇などの練習場として使用されてきた。創立八〇周年、九〇周年には、記念室芸術展の会場として利用された。



和四五(一九七〇)年一月十七日に竣工した。五月八日の落成式には県教育長をはじめ来賓百余名が出席され、式後、中京大学体育学部の学生による跳び箱・平均台・平行棒・鉄棒などによる記念体操演技が行われた。それから三十年の歳月が流れ、雨漏りなども出てきたため、中津高校職員・同窓会・PTAが地元県議を伴って、県当局への要望を繰り返した結果、平成十一年三月の県議会で新体育館建設の予算が決定された。当初、建設場所としては、将来的な校舎配置を踏まえて、第二棟・第三棟の東側の傾斜地が最適であると考へたが、予算その他の関係から第二体育館跡地への建設となった。

昭和二九(一九五四)年二月に完成したかつての第一体育館(当時は「旭ヶ丘会館」と呼んだ)は、幾多の卒業生達の思い出多き「旭ヶ丘会館」であったが、はるかに耐用年数を過ぎた危険建物として、平成十一年十月、十二月に解体された。思えば四六年前、五月十七日の「旭ヶ丘会館」の落成式には、当時の岐阜県知事武藤嘉門氏が出席し祝辞を述べられ、落成記念講演会には亀井勝一郎氏や前田青郎氏が来校されて講演され、ステージに置かれた新しいグラウンドピアノの初披露には、東京芸大教授の梶原完氏のピアノ演奏が行われた。ステイジや照明のある建物で、中津川市になかった当時、この「旭ヶ丘会館」は市民の文化娯楽施設としても大いに利用され、美空ひばりをはじめ有名歌手の歌謡ショーや、新制作座などの演劇公演がたびたび行われた。昭和五九(一九八四)年に大改修工事を行って補強され、柔道・剣道・卓球・演劇などの練習場として使用されてきた。創立八〇周年、九〇周年には、記念室芸術展の会場として利用された。

また、落成記念に彫刻家手塚修氏(当時の手塚高次校長のご子息)が寄せられ、会館の西側に建てられていた「鳩を抱いた乙女」の石膏像は、新築なった体育館の傍らに据えられる予定である。文責 梅村(12回)



第二体育館と「鳩を抱いた乙女像」

平成13年3月1日 「21世紀のテーマ」



中津高校同窓会会長 吉川光彦(5回)

二一世紀初頭の卒業生が今日母校を東立ちました。明治四一年三月に母校が第一回卒業生十二名を世に送りだしてから九四回目、高等学校になってから五二回目の新卒二四〇名が新装なった体育館において卒業証書が授与されました。母校の創立当時、木の香も母の木の造の校舎で机を並べ、教わったことは、今日まさに隔世の感でしょう。それは量も質もかけ離れたものと思えますが、卒業式の感激には違いはありません。同じ学舎で机をならべたと云うだけで不思議に親近感がわいてきます。IQの世間は時代と共に変わりますが、EQのほうを懐かしむこともあります。半世紀以上も生活しているけれど、色々あります。戦後、女学校から新制高校に変わって、戦火で荒廃した日本の将来に何の光明も見出せないまま、高校を巣立ったのでありますが、今日、立派に社会で活躍されている先輩、朋友の事を、特別マスコミにさわがれなくとも人の心を打つような生きざまをしている同窓生、そんな人達のこと、が段々解るようになってきました。朋友関係も学生時代、サラリマン時代、結婚時代、管理職時代に多くの人たちと出会い影響をうけましたが、それも退職後はおつき合いが段々に少なくなりつつある今、忘れ得ぬ人達のことを何かに書き記しておかねばならないと云う気持ちがあります。本紙は二年に一度の発行ではありますが、その度に珠玉の短編、俳句の一句、賑やかな記念写真の一葉を寄せて下さいます。今方々に感謝で一杯です。今の心境とか、朋友の消息を拝見して面影を彷彿させることは記憶と思考が久しぶりに機能して甦る気持ちがあります。本紙が未永く二万同窓生の絆であってほしいと願っております。

前回は「鐘の鳴る丘」のことを書きました。母校の校歌は「高鳴るや黎明の鐘」ではじまります。幾多の校歌のなかで我が母校のもの、何を誇らしく思っています。旭ヶ丘で学んだことは自分の宝であり、校歌は永遠の生活規範であります。そして旭ヶ丘はトンガリ帽子の時計台のあった丘のように、青臭さでパン

中津高校百周年 アイデア募集

四年後の百周年の記念事業、記念式典、記念行事などのアイデアをお寄せ下さい。同窓生や地域の人々にとって思い出深いものになりたいと思います。(長身長尾は八〇)

創一〇〇周年にはどんな企画をたてるか、母校はもとよりPTAと同窓会も一緒になって大きな宿題を抱えることとなりました。今回は、世間が大騒ぎをしている二一世紀と云う特別な時代の幕開けであります。母校にとつては二一世紀をクリアするという大節目であります。それをどのようにとらえてどんな形にして残すか、EQ感覚で取り組むのか、EQで甘んじっぱいものとするのか。大きな課題を背負うこととなりました。目下のところはそんな大命題についてあらゆる情報を収集して、幅広くアイデアを募集し、その中から選択出来るようにすることに思っています。2万以上の卒業生を擁する高校からおそらく県下でも1割くらいは100年の歴史を総括し、その力を示すことによって世間にその存在を再確認せしめ、旭ヶ丘で学ぼうとする若人が後絶つことなく、IQとEQのバランスのとれた人材を輩出し、母校が永遠でありたいと願うものであります。そのためにも会員各位のアイデアが数多く寄せられますように期待します。

こんにちは



学校長 山本 完六 (12回)

私は、一昨年四月から母校に勤めております。生まれも育ちも苗木の第十二回生で、その頃は明弘という名を使っておりました。在学中のクラス担任は上原、間熊崎の三先生で六十年安保、伊勢湾台風などが思い出です。いま、母校の責任者であることは喜びではあります。その責任の重さも並ではありません。「あいつが中津高校をおぞうした」と言われないようふんばっています。中津高女からの、二万数千名におよぶ同窓生の皆様の母校に対する温かなご支援をお願いいたします。

中津高校の校歌は詞・曲ともに「日本」と思っています。校歌は母校のバイブルで、生徒諸君には「校歌のような生徒であれ、校歌のような卒業生になれ、校歌のような学校をめざそう」と言い続けています。生徒諸君もこれに心酔して頭張って、同窓生の皆様が在学しておられた頃の気風、特色、伝統などがほぼ同じように引き継がれてきています。生徒諸君は授業、旭陵祭、部活動、修学旅行、諸行事、進路選択などに先生方の指導のもとで自主的、積極的に取り組んでおり、いろいろな人達から元氣のよい学校と評価されています。「自由と個人の尊厳・勤労と自治陶冶・未見の我を見出す。」

新たな世の柱」などの趣旨を特に大切に引き継いで、現在全日制十八学級・単位の定時制四学級の本校を発展させる糧にしていきたいと思っています。

ハード面では県費六億二千万円の二階建て体育館が完成しました。学校の下では市道の大明神トンネル建設がすすめられています。また、玄関前を中津高校の歴史を残す場として、創設者である間李右衛門翁の胸像とナシヤモンシヤの木を中心に分校記念碑を移設するなどの整備をしています。百周年に開けられる予定のタイムカプセルは中庭に納めてあります。校内設備では時代に合わせパソコンや自動水洗トイレなどの整備をすすめています。このように、建物などは少々変化していますが、恵那山はそのままの姿で、旭陵の丘から望む遠景は昔からならん変わっていません。機会がありましたら是非母校を訪れていただき、それぞれの我が熱き青春時代を思い出して新しい活力を養っていただきたいと思っております。その折には校長室も気軽にのぞいてください。熱い番茶くらいはお出しいたしますので。同窓生の皆様のご活躍とご多幸を祈念し、「こんにちは」のあいさつといたしたます。

演劇部全国大会出場



一九九八年十二月に福井県で開催された第五一回中部日本高等学校演劇大会で本校演劇部は最優秀賞を受賞し、翌年の八月山形市で開催された全国大会に出場した。本校が全国大会に出場するのは一九七〇年の岐阜大会以来であり、中部大会優勝は今回が初めてである。脚本は当時三年生の内田小百合の原案を顧問の日下部が脚本にしたもので、ギャグと脱線の中に高校生のみたむきさを垣間見せる点が高く評価された。演劇の全国大会は年度を跨いでしまうので、キャストも変更せざるを得ない。その新キャストの練習を兼ねて七月中旬に「文部大臣奨励賞受賞記念」の公演を行った。満席の中津川文化会館での公演は生徒達の大きな自信となった。チケット販売やカンパや広告等で公演費、遠征費等の捻出にご協力頂いたOBやPTAの方々にこの場を借りて改めて御礼を申し上げます。こうして臨んだ全国大会での生徒達の活躍は、観客から寄せられた感想を通して紹介されておりました。「バックの風景サイコー。すんごく笑わしてもらいました。爆笑、激笑、天笑ってな感じっす。」(秋田県湯沢高校2年)「テンポが良くってステキでした。装置すくって感動しました。子供達が小憎たらしくって好きです。」(栃木県栃木南高校2年)「舞台上に「屋上」という架空の場所が確かにあった。すこいね。四十分くらい経ったとき「あーもうすぐこのワールドとお別れか」となごり惜しくなった。もともともと見ていたかった。」(徳島県鳴門高校)「見た後はすこいイイ気分になりました。すばらしい。」(香川県高松高校2年)わざわざ感想を書いてくれるのは好感を持って見てくれた人達なのだろうが、模造紙三枚に書き連ねられた感想を読む限り、観客の高校生達には、本校の舞台は大好評だったと言えよう。自分たちの劇は十分全国で通用するという自信、そして、やるだけのことはやりきったという達成感、そんなものが上演後の生徒達の表情の中にはつきりと見て取れた。炎天下の駐車場における

中津高女、民主教育の模範

学生代議政治も完成

菅井深恵 (特一回)

県各地の自主的な教育民主化に多大な関心を寄せている岐阜県政界では過般来恵那郡下廿一校に教育将校を出張視察させたが、この報告によれば中津高女が特にすぐれているというので三日付けで首席将校エドワード・エル・リットル陸軍少佐から「本校の教職員並びに女学生は激賞に値する。中津高等女学校は所期の標準にいたらない他の学校に對して好個の模範と称するに足る」と日本入学校に對する賞状を授与、

山崎校長以下全校にどっどっと呼びあげさせた。軍政部当局が十日報道機関に発表した情報によると、同校の教職員は熱心で連合国最高司令官の指令を熟知している。その身なすは小綺麗であり、教員の示す手本は学生が熱心に反映している。学校自体は良好な管理の模範であり、また有能な教員を擁している。学生の組織する団体や学課外の活動について学生の誰彼なくずねてみ問ところによると、彼ら間には一つの学生代議政治が存在している。それから多数の会員の有する学生クラブがある。彼らが格別に自負する合唱団は歌が非常にうまかった。学生はまたアメリカの高等学校(Haiskool)につきまの熱心な質問を發した。その質疑回答内容を示す「問」アメリカの高等学校における男女共学は例外であるか、それとも一般的な規定か
【答】男女共学は一般的規定で大きいアメリカの高等学校は男女共学である
【問】アメリカの高等学校の学生は自分の好く学科を選択することができるか
【答】第一に学生は卒業後

文集『追憶—フユ先生を偲ぶ』

発刊について

平成十一年一月、青山フユ先生が亡くなりました。先生は中津高女、中津高校教諭および講師として四〇年近くお勤めになり、その名講義と面倒見のよさから、多くの生徒、卒業生に慕われ、いわば翌物先生の人であられた。翌十二年一月、先生の一年祭にお招きを受けた卒業生の中から、「先生を偲ぶ文集」という発議があり、出席者の中の有志が世話人となって、原稿と発行基金の募集を始めた。幸い各地や学年同窓会のご支援も得て、二月五日

同窓会役員紹介

- 同窓会会長 吉川 光彦 (5回)
- 副会長 杉本 潤 (20回)
- 関東支部長 和田 金夫 (定例6回)
- 関西支部長 坂本 章郎 (5回)
- 会計監査 佐藤 和男 (定例15回)
- 名古屋支部長 関西支部長 鮮 (6回)
- 小境 卓男 (2回)
- 前田寿太郎 (5回)
- 学校渉外担当 安藤 寿子 (9回)
- 原 喜久子(女34回)
- 菅井 延郎 (12回)
- 三尾 義彦 (12回)
- 常田 順子 (14回)
- 会 計 安藤 恒征 (12回)
- 横家 暎 (定例6回)
- 花田勝太郎 (13回)

卒業生文庫紹介

- 「潮への回帰」 新風舎 田原拓治 (12回)
- 「ふるさと握」 研究社 可知喜八 (旧職員)
- 「黒田辰秋・木工」 新潮社 先達に学ぶ 新潮社 早川謙之輔 (7回)
- 「真実の大学案内」 東京図書出版 山内太地 (48回)
- 「母のたわごと」 吉本登美子 (母)
- 「四季のしほり染」 大月書店 近藤愛子 (高女34回)
- 「意味のミラーボール」 青木書店 加藤恒男 共著 (12回)

※掲載してあります文庫は学校へ寄贈分のみです。

山田彦弥氏追悼

ランボー・シヨック



伊藤信雄 (元中日新聞編集委員) (3回)

「おい！のお。これを読むと面白いぜ。」見るとなにやらフランス人の詩らしい。「閑え、悩み、苦しみの三語が耳に残るが、なにしる五三年前のこと。記憶は定かでない。いま振り返ると、ランボーの「我儚の祭」の次の一節だったろうか。

多喜二の「蟹工船」や徳永直の「太陽のない街」といったプロレタリア文學。前進座の地方巡演ともなれば無償で前売り券の販売を買って出た。河原崎長十郎、中村軌石衛門の舞台姿は今も脳裏に焼き付いている。

高校一年の時は、西村慎太郎さん(電通)や亀井俊介さん(東大)ら二年生主導で、下働が多かった。二年生になると、印刷会社との交渉や、広告取りに加えて、メイン記事を決めたり、論説やコラムを書かねばならぬ。一面はなんとか私の責任で作るにしても、二面の文芸欄はお手上げ。彦弥さんの助けなしに作れない発足間もない文芸部との掛け持ちで、さぞ忙しかったに違いない。「学生新聞には珍しく格調が高い」と他校の新聞関係者からお褒めの言葉を頂き、鼻が高かった。

名古屋大学学生新聞編集長の呼びかけに応じて東海学生新聞連盟に加盟した。岐阜県の高校ではまだ数校と少なかった。彦弥さんの出番は多かった。後年、中津高校関東OB会で何度か定例した。京都の夜はよかつたなあ」と話し掛けられて往生した。連れは私より一年上でひょうきんな青木慎一さん(朝日新聞)だった。二つの学生新聞で素晴らしい同期の桜や先輩、後輩に恵まれた。あの三年は「希望と自由に生きた貴重な青春だった」と今しみじみ思う。

山田彦弥氏(3回) 一九九九年十月死去。六六歳。新潮社常務。八一〜九三年「週刊新潮」編集長。

母校で頑張っています 中津高校・在職中の同窓生

☆加藤 忍(10回) 体育 二度目の奉公で十年、三月で定年を迎えますが、高校で始めたバスケットボールを後輩に教えています。今は三度目の東海大会出場を目指し、その下地作りに懸命な毎日です。

☆加藤 康(16回) 物理 このところ物理の授業は楽しくできています。五〇代ともなるとストレスが身体に故障を引き起こすことも知りました。該当者ご用心。

☆三品昌治(16回) 数学 ここに来て早いもので十六年になります。ずいぶん変化はしたけれど、昔からの自由な校風・伝統が続いていて、大変良い学校だと思います。母校で教職が出来て良かった。

何よりもつらい苦しみはなぜか知らずに悩むこと、愛も憎しみもないのに私の心にはこれほどの苦しみが！

ランボーは十七歳で早くも天才の片鱗を見せ、わずか三年で「自らその美神を絞殺した」(小林秀雄「ランボー」)十九世紀後半のフランスを代表する象徴派詩人である。文学にいち早く目覚めた彦弥さんが、「慶応の卒論でランボーを選んだ」(妻喜恵子さんの話)というほど、魅せられたのは、その凄まじい感性にだけあったろうか。

終戦の翌年、中学(旧制恵那中学、現恵那高校)一年の私は、共産党の伊藤律さんの母校講演を聞いてから「これからはマルクスの時代だ」と勝手に想像、マルクスボーイに変身していく。文芸書といえば、小林

名古屋大学学生新聞編集長の呼びかけに応じて東海学生新聞連盟に加盟した。岐阜県の高校ではまだ数校と少なかった。彦弥さんの出番は多かった。後年、中津高校関東OB会で何度か定例した。京都の夜はよかつたなあ」と話し掛けられて往生した。連れは私より一年上でひょうきんな青木慎一さん(朝日新聞)だった。二つの学生新聞で素晴らしい同期の桜や先輩、後輩に恵まれた。あの三年は「希望と自由に生きた貴重な青春だった」と今しみじみ思う。

☆梅村 薫(12回) 社会 全日制十四年、そのあと定時制に移って八年。母校でついに最後を迎えられた。幸甚に感謝しています。

☆安江忠城(12回) 音楽 関養護学校三年中津高校十四年恵那高校八年と中津高校には二年間「心からの音楽表現」を求めつつお世話になっていきます。残り二年間ですがよろしく。

☆花田勝太郎(13回) 美術 西より東へ、平成四年より母校で残り三年となりましたが、私達が過ごした時と同じように校歌の校風が息づいており、芸術系部活も盛んで生徒と楽しく頑張っています。

☆伊藤正朗(18回) 数学 教員生活の約半分を母校でお世話になっております。自分の生徒の頃と変わったものは、坊主頭と体育祭の応援歌ですが、ひとなつこさは東濃一のまま、それには東濃一で毎日登校しております。

☆目下部長穂(18回) 数学 音楽部のOBですが今は演劇部の顧問をしています。仕事が遅いので周囲に迷惑かけていますが、みなさん優しいのでなんとか動かせせて頂いています。

母校で頑張っています 中津高校・在職中の同窓生

☆安田明美(27回) 事務 縁有って二五年ぶりに、母校で働かせて貰っています。折々にフラッシュバックしてしまい懐かしさにどっぷり浸かって中高生に戻ってしまいます。

☆林 尚志(29回) 国語 母校に赴任して五年、燃えるような情熱と謙虚な心なくして向上なしをモットーに、今後とも進学校としての責任を自覚し、文武両道を旨とする教育実践に励みます。

☆渡邊卓哉(32回) 体育 母校に赴任して四年。生徒も二〇年前とは少々変わってきましたが、根本的な中津高校の素晴らしさは、まだまだ一杯残っています。今、思うと生徒時代の恩師の方々、学校の雰囲気、仲間が良かったから、今でも中津高校を愛するうちの一人であると思います。

●石田 曠先生 平成十二年十二月七日ご逝去六八歳。昭和三〇年から昭和五三年まで図書館司書として勤務されました。

●竹原千枝先生 平成十二年十一月三日ご逝去八一歳。昭和三〇年から昭和五三年まで図書館司書として勤務されました。パレ一部顧問

●鈴木茂男先生 平成十二年十一月三日ご逝去七五歳。昭和二五年から三〇年まで英語教諭として勤務されました。パレ一部顧問

●遠藤裕二先生 平成十一年十一月五日ご逝去四九歳。平成九年から二年七月数学教諭として勤務されました。弓道部顧問

●鈴木茂男先生 平成十二年十一月三日ご逝去七五歳。昭和二五年から三〇年まで英語教諭として勤務されました。パレ一部顧問

☆岩本隆明(22回) 数学 我が母校中津高校へ教員として赴任したときの感動は今でも忘れません。昔と

☆岩本隆明(22回) 数学 我が母校中津高校へ教員として赴任したときの感動は今でも忘れません。昔と

☆岩本隆明(22回) 数学 我が母校中津高校へ教員として赴任したときの感動は今でも忘れません。昔と

☆岩本隆明(22回) 数学 我が母校中津高校へ教員として赴任したときの感動は今でも忘れません。昔と

☆岩本隆明(22回) 数学 我が母校中津高校へ教員として赴任したときの感動は今でも忘れません。昔と

☆岩本隆明(22回) 数学 我が母校中津高校へ教員として赴任したときの感動は今でも忘れません。昔と

☆岩本隆明(22回) 数学 我が母校中津高校へ教員として赴任したときの感動は今でも忘れません。昔と

☆岩本隆明(22回) 数学 我が母校中津高校へ教員として赴任したときの感動は今でも忘れません。昔と

☆岩本隆明(22回) 数学 我が母校中津高校へ教員として赴任したときの感動は今でも忘れません。昔と

恩師訃報

☆佐々木生余(46回) 養教 まだまだ未熟者ですが、母校で働かせて貰って二年になりました。生徒との関わり合いの中からは、少し落ち着いたかなと思います。

☆野尻晶子(47回) 家庭 私の高校生活そのものがつまった場所でも働くという事は、とても不思議なものでしたが、後輩達と同じ時間を過ごせる幸せを感じ、母校に戻れたことに感謝しています。

☆近藤愛子(高女34回) 染織 (中津川在住) 夏に中国の南京にて「鯉のぼり」展予定

☆鈴木 道明(1回) 洋画 (多治見市在住) 個展五月二日〜七日 多治見市「ギヤラー小林」

☆笠木 茂(3回) 洋画 (福岡町在住) 個展五月四日〜十三日 中津川市「ヒガシギヤラー」

☆仁科恵実(9回) 版画 (国分寺市在住) 個展三月 中津川市「ヒガシギヤラー」

☆水上 貴博(11回) 洋画 (フランス在住) 予定パリ近郊で個展二回、ドイツ展覧会決定、中津川にて個展開催予定

☆滝川英明(20回) 洋画 (中津川市在住) 個展六月 中津川市「ヒガシギヤラー」

☆栗谷本文三(22回) 洋画 (川口市在住) 個展七月 中津川市「ヒガシギヤラー」

☆原 勉(29回) 洋画 (愛知県在住) 個展十一月十七日〜二十日 大阪「ギヤラー白」 個展十一月四日〜十六日 名古屋「ギヤラーライナル」

☆原 勉(29回) 洋画 (愛知県在住) 個展十一月十七日〜二十日 大阪「ギヤラー白」 個展十一月四日〜十六日 名古屋「ギヤラーライナル」

☆原 勉(29回) 洋画 (愛知県在住) 個展十一月十七日〜二十日 大阪「ギヤラー白」 個展十一月四日〜十六日 名古屋「ギヤラーライナル」

☆原 勉(29回) 洋画 (愛知県在住) 個展十一月十七日〜二十日 大阪「ギヤラー白」 個展十一月四日〜十六日 名古屋「ギヤラーライナル」

☆原 勉(29回) 洋画 (愛知県在住) 個展十一月十七日〜二十日 大阪「ギヤラー白」 個展十一月四日〜十六日 名古屋「ギヤラーライナル」

☆原 勉(29回) 洋画 (愛知県在住) 個展十一月十七日〜二十日 大阪「ギヤラー白」 個展十一月四日〜十六日 名古屋「ギヤラーライナル」

☆原 勉(29回) 洋画 (愛知県在住) 個展十一月十七日〜二十日 大阪「ギヤラー白」 個展十一月四日〜十六日 名古屋「ギヤラーライナル」

☆原 勉(29回) 洋画 (愛知県在住) 個展十一月十七日〜二十日 大阪「ギヤラー白」 個展十一月四日〜十六日 名古屋「ギヤラーライナル」

☆原 勉(29回) 洋画 (愛知県在住) 個展十一月十七日〜二十日 大阪「ギヤラー白」 個展十一月四日〜十六日 名古屋「ギヤラーライナル」

同窓生作品展案内

美術芸術分野で活躍してみえる方々の(二〇〇年個展)案内です。

☆佐々木生余(46回) 養教 まだまだ未熟者ですが、母校で働かせて貰って二年になりました。生徒との関わり合いの中からは、少し落ち着いたかなと思います。



活躍する卒業生

緑ゆたかな地域づくりをめざす

中津川市長 中川 鮮(6回)



私は、昭和三十年(一九五五)三月に中津高校を卒業しました。高校から進路を決めて歩み始める時が、社会へのかかわりの中で最も影響があると思いますが、私は自然が大好きなので、海や山を対象とする職業に就きたいと思っていました。水産大学へ進学し南水洋捕鯨のキャッチャーボートに乗り組みたいとか、アフリカでゲーム・レンジャー(狩猟管理官)になりたいと夢

を見ていたものです。少年の夢は実現せず、大学に進学し、京大防災研究所で四十年近く森林や山地地盤と地下水のことを研究してきました。フィールド調査を行ない、地すべり、山くずれ災害のメカニズムと防災技術の研究を続けました。特に、ここ二十年間くらいは、オーストラリアとドイツの山地丘陵(日本の里山)水源地を調べ、災害、公害発生に対応してきました。

「人に優しい安心な街」づくりを目指して

坂下町長



昭和三十四年三月に中津高校普通科を卒業後、直ちに坂下町役場に入り、建設課長、総務課長、収入役、助役を経て平成十二年四月任期満了に伴って町長選挙に立候補し初当選をさせていただきました。永年公務員として住民福祉の向上に取り組み、今度是我の町づくりに取り組んでお

いよいよ二一世紀を迎えました。時代はモノの豊かさを求める時代から、心の豊かさを求める時代へと変わっています。「心豊かに暮らせる社会」とは、それぞれの「個」を生かす多様な価値観を持つ社会であるといわれています。そこでは、すべての人が、それぞれの能力をそんぶんに発揮し、充実感を持って生きる事ができます。そして、すべての人が、それぞれに他者に役立つことで感謝され、己の存在意義を実感するのです。こうする事により、すべての人がのびのびと生きることのできる「場」となります。私たちはそうい

も木曾谷の町村や付知川沿いの町から多くの生徒が通学してきて、人的な交流はかなり広く行われていました。それぞれ各地の町村の個性を持った生徒がいました。互いにふれあってきたからこそ成長しあえたものと信じています。行政の広域化がすすみます。住民サービス、事務効率など社会的ニーズの多様化に對しての必要性から急速に具体化するでしょう。このような時流に際し、気にかかるとは地域に育まれてきた良質な伝統的行事等のほかに、地域そのものが保全対象になる価値をもつものが失われることです。私の経験からみて、高校生活は人生を歩むのに貴重な体験の場といえます。故郷地域を技術論財政論から考える若者が活性化することを期待します。

病院を核として、保健、医療、福祉が一体となった地域包括ケアに取り組み、子どもからお年よりまでが安心して暮らせる、高齢化社会に対応し得る町づくりを進めておられます。昨年の国勢調査により、当町は少子高齢化に伴い年々過疎化が進んでいるとの結果がでました。このままでは人口が五千人を下回ってしまうことも懸念されておられます。そこで、二一世紀を担う若い世代の定住を図るため、昨年は五棟目となる若年層向け町営住宅の建設に着手し、今年七月には完成をみることにあります。人口対策としては、このように住宅施策のみならず、就業場の提供も考えていきたいと思っております。

ネパールのボランティアに生きる

染織家 近藤 愛子(高女34回)

少女時代、青年時代を、満州に始まる第二次世界大戦の中で過ごし、私は、敗戦後結婚して、子供を育て四〇歳になったとき、失った青春時代を取り戻したい、と夫婦で登山を始めました。十年間、北アルプスを始めとし数々の山を歩き続け、一九七五年にあこがれのヒマラヤに登るべく、ネパールの地を踏み出しました。ネパールは、地球上の最貧国のひとつ。

その後、そこで見たとやせ細った子供達のことや忘れられず、翌年の夫の死を機にネパールのボランティアを志しましたが、伝が得られず一時中断。以後十七年間は、開化の鯉のぼり展を各地で開催したり、三歳未満児の保育園を建てたりと忙しい日々を過ごしました。六五歳になったとき、まだやり残したことがあるのに気づき、再度、伝を求めてネパールへ渡りました。英語も、ネパール語もまだな私でした。

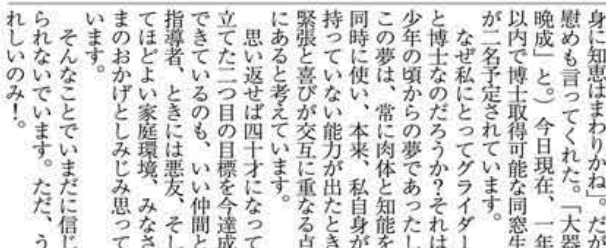
●識字学級九学級(一九九七年より一年間) 三学級(二〇〇〇年より一年間) 子供学級・朝(六時三〇分から八時三〇分) 夜(六時三〇分から八時三〇分) ●水道工事小学校五校、一村パイプを引き水呑み場敷設最長距離五キロメートル ●植樹 樺の木、桜を種から育て山に植える。現在一万本となる

その後、そこで見たとやせ細った子供達のことや忘れられず、翌年の夫の死を機にネパールのボランティアを志しましたが、伝が得られず一時中断。以後十七年間は、開化の鯉のぼり展を各地で開催したり、三歳未満児の保育園を建てたりと忙しい日々を過ごしました。六五歳になったとき、まだやり残したことがあるのに気づき、再度、伝を求めてネパールへ渡りました。英語も、ネパール語もまだな私でした。

●草染め手編みのセーター作り、女性の経済的自立、糸を紡ぎ、染色、編み方を教えて現在は作品を日本で販売 ●図書館設立(準備段階) 教科書以外、活字に触れることのない人々に、一人で始めたネパールボランティアでしたが、十年の間、多くの方々の暖かい支えと協力を頂くことが出来ました。 あつという間に私は七五歳になり、最初に建てた学校の一年生が、高校を卒業する頃までネパール通いをしてしまいました。

物のない生活がうらやましくさと思われようになりました。お手伝いしたこと以上に沢山のお土産がもらえました。また、私が健康でいられたのも、ネパールのおかげだと思っております。

十四年前の四〇才に博士号とグライダ―免許を取得する人生目標を「私」としては、かなり曖昧と言ったのか、とても達成できるとは考えていませんでした。 グライダ―においては、同時期に入った伊藤さんがあつという間に免許を取ったし、ふらふらしているうちに数年後に入ってきた嫁さんにすんなり追い抜かれてしまつた。 博士号においては、我が同窓生の博士取得者七名の内、私が今のところ、最年長であります。(という事は、落第生なのだ)亡くなった父親が事有るたびに言う「大男総業が思い出される」「大男総業に知恵はまわらかね。だが、慰めも言ってくれ。」「大器晩成」と。今日現在、一年以内で博士取得可能な同窓生が二名予定されています。 なぜ私にとってグライダ―と博士なのだろうか?それは、少年の頃からの夢であつた。この夢は、常に肉体と知能を同時に使い、本来、私自身が持つていない能力が出たとき、緊張と喜びが交互に重なる点にあると考えています。 思い返せば四十才になって立てた二つ目の目標を今達成できているのも、いい仲間と指導者。ときには悪友、そしてほどよい家庭環境、みなさまのおかげとしみじみ思っています。 そんなことでいまだに信じられないです。ただ、うれしいのみ!



ヒレ村に水が来た(中央が近藤さん)

草染めセーターづくり

ダーラカルカの小学校

英語・自然科学コースその後

二一世紀を迎えた中津高校の近況をお伝えする。昨年三月、自然科学コースの第一期生を世に送り出した。三年間クラス替えがない、という本校としては何十年ぶりの特別な高校生活を送った生徒たちであったが、クラスの団結力も高く、よく努力して立派な成果を収めてくれた。一年次から週二回ずつ実施したコンピュータ講座への参加率も高く、新しい伝統の第一歩を踏み出してくれた。

また、自然科学コースに対応する英語コース（こちらもクラス替えなし）は、昭和六一年以来の「文系・理系混在の選抜コース」であった時代とは趣を一変して、文系進学コースとしての成果を高めている。英語という冠から、外国語への関心も高く、こちらも期待に違わぬ成果を収めてきている。（英語検定結果参照）参考までに二つのコースの進路実績と英語検定の結果を以下に掲げてみる。

進路実績 (平成12年度卒業生)
英語 11 20 2 3 2 3
自然科学 13 11 3 7
学年 35 121 21 48 15 34

コースを取り巻く状況
二つのコースは順風満帆の船出をしたように見えるが、問題点が全くないわけではない。
◎まず一つは、クラス替えがないことから途中で進路希望が変わったとき必要科目がとれない、あるいは時間が少ない、といった点である。人数的には少数なので、各教科とも連携して極力個人指導などで対応している。

中津高校校定時制
同窓会総会開かれる
五月十三日(土) 例年 育館建設にともなう設備通
五月の第二土曜日、
平成十二年度 中津高校校定時制
同窓会総会開かれる
五月十三日(土) 例年 育館建設にともなう設備通
五月の第二土曜日、



役員会、二〇〇一年度定例総会、懇親会が勝宗にて開催された。
総会は来賓として関東OB会より赤坂保氏を迎え、出席者数三九名。役員は改選なし。
(同窓会役員名簿は2Pに掲載)

同窓会総会開かれる
席で、和田会長から「今年度中に、定時制同窓生の我と思わん有志による芸術作品展を開きたい」という特別提案がなされ、取り組みを開始することになった。



同窓会総会開かれる
席で、和田会長から「今年度中に、定時制同窓生の我と思わん有志による芸術作品展を開きたい」という特別提案がなされ、取り組みを開始することになった。

関東支部だより
今年も十一月十一日(土)、霞が関ビル三五階「霞が関東京会館」において、恒例の中津高校関東OB会が開催されました。
当日は、ご多忙かつ遠方にも関わらず母校、同窓会本部より山本校長先生、吉川会長をはじめ五名の来賓の方々のご列席を賜り、特一回生から二三回生まで、二四学年の関東OB会会員のご参加を頂き、合わせて総勢約一六〇名の同窓会となりました。

関西支部だより
関西支部の行事等活動は、かつての阪神淡路大震災の発生により、被災者が会員の中におられることもあって自粛状態を続けてきました。今春には活動計画を予定していますので、皆様のご参加ご支援を宜しくお願いいたします。役員につきましては、支部長が中津川市長に就任しましたので、交代人事をすすめることになっています。

同窓生イベント

九月二四日、地元ユニーグリーン中津川ゴルフ倶楽部に於いて「第七回旭陵ゴルフ大会」が開催された。第一回生から第四回生まで一〇〇名を越える参加者がありました。パーティには山本完六校長もかけつけて下さり全員で校歌を歌いました。



ゴルフの競技はダブルペアー方式で行われ、先輩の後輩の打一打に一喜一憂でした。「今は様々な生き方をされている方々が、同校歌をかみしめながら歌っている姿に深く感銘を受けた。」(参加者談)
この大会は毎年行われ、開催の連絡は口こみで伝わっている状態です。
本年は九月二十三日(日)に開催を予定しています。ふるってご参加ください。
●問い合わせ
旭陵ゴルフ会事務局
家高浩一(37回生)
FAX0573-25-1254
E-mail: kyukyugolf@nabucorp.jp

同窓会 同窓生だより

高一回 半世紀を過ぎて

昭和十九年中津高女に入學し、学制改革に伴って中津高女卒業まで六年間を旭が丘で学びました。

女学校卒業と同時に高校二年生に編入され、いくつもの学科が統合して県下の総合高校となりました。その翌年にはさらに学区制で男女混合の普通科三学級が誕生しました。

小学校二年生以来の同窓で戸惑いを感じつつも楽しくかつ男子に負けじと勉強にも励んだ記憶があります。また二度に及ぶ火事に見舞われ、竣工途中の講堂に紅白幕を張って行われた卒業式でした。思いも寄らぬ経験をした高校生活でしたが、

高五回 六五才にして 意気軒昂!

記念すべき二十年の十月十四日に十七年ぶりの同級会を開いて激励しあつた。集合場所の中津高校校門付近には、今だにかくしゃ付近は、今だにかくしゃ男美女が各自の苦勞年輪を持寄つて五十余名が参集。宴会場へ行く前にここに集つて、しばらく四十七年前の懐古の情に浸ろうと提案したのは吉川光彦代表幹事。実になごやかな情景だつた。会場の勝宗では成瀬聖慈会員、山田友市会員ら十六名の物故者に黙祷を捧げて冥福を祈つた後、各地の会員の元氣な近況報告に聞入つた。旧交を温め、老後に

向けて生きがいを感じる激励のつもりが、「今だ現役、今後も現役」という参加者の仕事や趣味への元氣のよい抱負に感発されてがぜん盛り上がり、益々闊達的人生への総決起集会になつてしまつた。校歌の合唱もすばらしく、「まだ何回か集れそうだ。」とうれしくなつた。
田口正彦

高六回

二千年四月、風の会、お母さんの会、六回生ほか多くの市民の応援を得て、中津高六回生の中川鮮氏が中津川市長に当選。彼の素晴らしい人柄と「市民参加、透明で公正な市政・里山環境保全」の公約が市民の心



を動かし大差による勝利でした。まさに校歌の歌詞のように母校の名を顕しにくださつたのです。うれしい限り。九月末の六回生同窓会もこの快挙をうけて大いに盛り上がりました。全国各地から集まつてくれた六七名の仲間。花田先生をはじめ、長瀬、原、篠原、糸魚川の各先生がご出席下さいました。校歌を声高らかに歌い、余興ではクラスごとのステージで歌い、カラオケに合せて会場に踊りの輪ができました。先生方の出し物も最高でした。賑やかに、和やかに懐かしい方々との久しぶりの出会いを楽しみました。ご参集の皆様本当に有り難うございました。
大脇文子

出席されなかった土居喜久子さんから次のような手紙が届きました。
大脇文子様
お寒さ加わつて参りました。木曾路の美しい紅葉の季節は如何でしたでしょうか。懐かしく思い出しております。過日はお手紙とお心にかけただだきましてのお見舞誠にありがとうございました。皆々様の温かなお心に感謝しまして、ALS大分県支部に寄付させていただきます。厚く御礼を申し上げます。七二名も相集われまして、入青春が蘇り盛り上がりつつあつたのではと想像致しましてあの坂道学び舎街並み等々つい昨日のことのように浮かび胸熱く致しました。
土居喜久子

高十九回

五十年をありますが、そして、第十九回同窓会が平成十二年八月十二日(土)高砂殿にて行われました。
来賓の恩師の先生方には、糸魚川忠平先生、鈴木一先生、西尾英吉先生、田口良平先生、浅井敏美先生の五人が出席して下さり、長年の経験に培われた興味深いお話をしてくださりました。
全国各地から集つた総勢八八名の同窓生は懐かしい顔を見つけては話に花が咲き、楽しい一時を過ごしました。名残りはつきませんが、五年後の再会を約して散会となりました。

を幹事一同お待ちしていました。最初故人への黙祷をささげ、懇親会に入りました。出席者の持参した土産物等の交換会ではポータブルテレビを出した人もあり、バラエティーに富んだ品物が交換されました。ついでに中津高に寄つてみようということになり、中には中津高に来るのは卒業以来の人もあり懐かしがついていました。ちょうどその時、演劇部が全国大会を前にして旧体育館で練習をして三十数年前の高校時代に舞戻つたような一時でした。その後、高砂殿での二次会、さらに「にし」での三次会もあり大変有意義で楽しい一日でした。
大山勝

高七回

H・I・Jクラス会が開催されました。去る八月十二日、中津川駅前の玉吉家旅館において盛大に開催されました。四七名の参加者が集まり、懐かしく楽しいクラス会となりました。



寄つた人生経験と過去の懐かしい思いで話に花が咲き、一次会、二次会と時のたつのを忘れて楽しい時間を過ごし、二年後の再会を約して解散しました。次回にはさらに多くの参加者の出席



を幹事一同お待ちしていました。最初故人への黙祷をささげ、懇親会に入りました。出席者の持参した土産物等の交換会ではポータブルテレビを出した人もあり、バラエティーに富んだ品物が交換されました。ついでに中津高に寄つてみようということになり、中には中津高に来るのは卒業以来の人もあり懐かしがついていました。ちょうどその時、演劇部が全国大会を前にして旧体育館で練習をして三十数年前の高校時代に舞戻つたような一時でした。その後、高砂殿での二次会、さらに「にし」での三次会もあり大変有意義で楽しい一日でした。
大山勝

を幹事一同お待ちしていました。最初故人への黙祷をささげ、懇親会に入りました。出席者の持参した土産物等の交換会ではポータブルテレビを出した人もあり、バラエティーに富んだ品物が交換されました。ついでに中津高に寄つてみようということになり、中には中津高に来るのは卒業以来の人もあり懐かしがついていました。ちょうどその時、演劇部が全国大会を前にして旧体育館で練習をして三十数年前の高校時代に舞戻つたような一時でした。その後、高砂殿での二次会、さらに「にし」での三次会もあり大変有意義で楽しい一日でした。
大山勝

高二十一回

クラスが残暑を過ぎたとはいえず暑気厳しいミレニアムの八月二十六日(土)に「ジャンボリー二十一」と称し全国各地からの参加にて開催されました。当日の集合場所を高松玄関前と、ほとんどの人が卒業クラス毎に記念写真に収まり、その後高砂殿に会場を移し、同級生全員に案内し、都合の付いた百三十余名での卒業三〇年、団魂世代の宴を卒業時担任であられた磯部彰、多村兼明、田口良平、鷹見幸彦、河合正明各先生をお迎えし、賑々しく楽し高松時代にタイムスリップし、時の経つのを忘れさせてくれた懐かしい顔、顔の一時でありました。会話は高校時代が中心でも独身



貴族の人、子育てに追われる人、片付いた人、すでに孫のいる人、仕事に打ちこんでいる人、夢に向って頑張っている人、趣味に没頭している人、家族を宝としている人等が現況を語りあっている姿は制止できないほどの盛況にて、次回の約束の元、現実へと散会しました。

上田信義

定時制同窓会 同窓生だより

本校定商一回

卒業生のボランティア活動の紹介 サラリーマン賛歌ではないが、かつて「学校出てから十数年、今じゃ会社の云々と」を謳歌した時代からずいとい、過ぎて私達は「学校出てから五〇年今じゃ、老骨に鞭うって社会に迷惑をかけたよ」と心掛けています。数少ない第一回卒業生には中小企業診断士の実力を活用して海外(主にアメリカ)で活躍中の可知延夫さんからは、「今年中にリタイヤするよ」と連絡がありました。名古屋に落ち着き地域への活動を始めると思います。

熊谷国男さんは第一種電氣主任技術者の資格からト

高二十二回

祝！サッカーOB会設立

二一世紀の幕開けに際しまして、中津高校サッカー部のOB会設立をご報告する機会を与えて戴き、誠に有り難うございます。振り返ってみますと、我が中津高校サッカー部は、創設されてから今日までに五〇年が経ち、OBの数も五五〇名にも及ぶようになります。このような長い歴史の中で、幾多の輝かしい戦歴を刻み、立派な伝統を築いてきました。中津高校所在地の中津川市におきましても、「市民一人一スポーツ」を目指して、中津川公園に「中津川競技場」が出来上がり、天然芝のフィールド施設でサッカーが出来ることになりました。

高二十三回

このように整いつつある恵まれた環境の中で、中津高校サッカー部OBの多くの方が、一生を素晴らしいサッカーと関わりを持ち続け、自らサッカーを楽しみながら、地元の子供の育成・指導に関わって活躍しています。

また、二〇〇二年には、日韓共同開催によるワールドカップが予定されていることから益々、日本でサッカーが興隆するのではとの期待も高まっております。 洞田一

本校定商二回

ヨタ自動車の関連会社の主任技術者として奉仕活動をしていました。伊藤郁雄さんは学生時代海外でお世話になったお返しに「フロンティア」とよはしの代表者としまして、外国籍市民との共生を目指す国際協力の活動を地道ですが活躍しています。機会がありましたら激励してやってください。

成木昭三

苗木分二一回

一日生涯

働きながら学んだ思いでのシンボルとしての「勤労学舎跡」の碑。これは定時制高校創立五〇周年記念事業を行った節目に、苗木中学校敷地内に建てたもので



百周年に知恵と力をお貸しください

母校にとつて大きな節目にふさわしい様々なアイデアをお寄せください。ことに、同窓生からの寄付金でどんな記念事業を行うのがよいか、知恵と力をお貸しください。



中津高校定時制 同窓会総会 平成十三年(二〇〇二年)七月十五日(日)午前十時、デンア中津川 会、今年度中に定時制同窓会関係者の芸術諸作品展を計画しています。

本校定商五回

二月世紀のぞむこと 正月申飲んで、テレゴロしていたら、かえって疲れがでてしまい、何もやらずにいると、体がまよってしま、頭も体も退化していき、それがはつきり判る。すべて此の世の人は、二〇世紀と二一世紀と、二股かけて生きているつわものどもだ。働きながら学び、どうせ苦勞するなら、徹底してやろうじゃないか。このどうしようもない世の中、政治不信、経済不況、犯罪

可知清

ある。私達、苗木分校も僅か二〇余年の歩みであったが、戦後の疲弊した国状の中に、教育の機会均等を叫び、向学の志に燃えて、働き、学んだ青春の証なのである。その後、誰となく訪れ往時を偲んでいるようだが、建設に当たった幹事達で、春・秋などの記念樹の手入れ、草取りの清掃に爽やかな汗を流し、会食のひと時を楽しんでいる。半世紀の時は流れなかつく、職場と学校を行き来した日夜、いかに時間の尊さを知り、凝縮された時間に生きることの信念の強さを身につけたか。テレビを見て、無駄話をしていっているうちに時間は過ぎてゆく。「夕方にはまだまだ時間がある」「まだ明日がある」と、仕事を先送りして後で悔やむこと

本校定商七回

楽しかった同窓会



平成十二年三月二四日に四年ぶりに同窓会をクアアリゾート湯舟沢「花更紗」で開催しました。今回は二十年の年を趣向を変えて宿泊をしてゆつくりと語り合うというところで計画しました。十七名の方が参加して頂き、夜遅くまで思い出話

本校定商十四回

卒業して三五年たつが、在学中は定時制をやめたいと思ったことは、一度や二度ではなかった。当時多くの方がそうだったろうと思

出となりまして。失敗した事、苦勞した事はいつまでたつても自分自身の意識の華として残っております。 高橋直勝

や近況など語り合、楽しく過ごす事が出来ました。翌朝は思わぬ雪降りてびつくりしましたが、馬籠からの雪景色を見るのができ、一つの思い出が出来ました。今回は魚を食べに北陸へ行くことと決まり、平成十二年九月二九日にレンタカーを借り、永平寺に寄り、なぎさドライブウェイの素晴らしい夕日をながめ、宿泊地九段坂温泉泉国民年金健康保養センターへ。参加者は運転士を含め十四名の旅でした。帰りには魚市場、高岡大仏に寄り、白山スーパー林道の紅葉を見ながら帰路へ、楽しい二日間でした。次回は二年後に開く事で皆と別れました。 伊藤孝男

女学校同窓会

高女二一五回

中津高女二一五回、昭和八年度一〇八名卒現在も近く...



中津在住山内さんより N F 生

学友の歌
女学校卒業記念のアルバムを見ればなつかし...

高女三〇回



二〇〇〇年の秋、卒業生クラス会が十月二三・二四...

住服部初恵様、相野伸江様、光岡君恵様のお世話になって十七名参加...

高女二八回

「鶴飼いクラス会」

懐かしの中津高女を卒業してから幾星霜を経て今夏...



志が、今世紀最後の二千年の夏の鶴飼いを見物できた幸...

高女三二回

家庭科の実習が始まったばかりの時、初の揚げ物は...

せ下さい。恵那山は普通形良く学校から見上げられます。

高女三六回

私たちは戦争の最中必勝を祈願しながら勤労奉仕と軍隊教育の中で女学校生活を送りました。



は応召されて小学校の男のお子様ばかりが二人残されていたのだ。

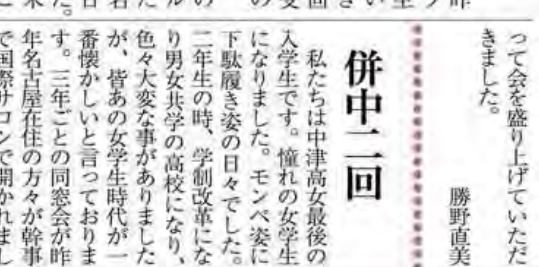
高女三四回

中津高女三四回卒業生同級会の呼び名である。大正の末期に生まれて、昭和という激動の時代を生き抜いてきた私たちの支えとなつて

多くのお窓生の方々と原稿をお送り頂きありがとうございます。

高女四〇回

暖かな陽光に誘われて昨年五月二七日に恵那峡グラントホテルで高女四〇回生(六九歳)の同窓会を行いました。



日への仲間の活力を感じました。おかげで私は合唱サークルから平成五年と十年に英国へのクラス演奏旅行へ参加し、深感動を覚え、よりよい生涯の思い出を得られたことに感謝しています。

併中二回

私たちは中津高女最後の入学生です。憧れの女学生になりました。モンペ姿に下駄履き姿の日々でした。

ごさせていただいた地域の人々のお役に立つのをおもっています。Eメール、払い込み用紙の通信欄等をご利用して、アイデアを知らせて下さい。

編集後記

同窓生・恩師の動静等を、今回の編集方針として、紙面を作りました。

事務局だより

中津高校のことは HP: http://www.abcs-nishitani.ac.jp/ 同窓会へのお便りは Email: kyokuroto@takenei.or.jp